

# HopStepJump 9

## 人権について考える②

～ 人権教育の推進と様々な人権課題について ～

<http://toyono-jinjikyō.com/>

### 大阪人権博物館（リバティおおさか）展示見学・意見交流

第 9 回の初任者研修は、大阪府人権博物館（リバティおおさか）を会場に、豊能町教育委員会教育支援課、張裕太郎副主幹の進行のもと展示見学、意見交流を行いました。

大阪府人権博物館は、右記の目的により 1985 年（昭和 60 年）に開館しました。豊能地区初任者・新規採用者研修において、人権についての見識を深め、人権教育の推進をはじめ、日常の業務や授業に活かしてほしいという願いを込め、この博物館を会場に研修を行っています。

「当たり前」「こうあるべき」という決めつけられた考えのために、生き方を狭められることなく、様々な文化や人々の生き方が大切にされ、共に生きる社会をつくるため、教職員として何ができるか深く考える研修となりました。

#### 大阪人権博物館の目的

「自他を尊重し、豊かな人権感覚を育むための調査研究や、資料・文化財などの保存や展示公開により、人権意識の伸長と啓発及び人間性、社会性の養成に資することを目的とする」

（同館 WEB「概要より」）

### ～振り返りシートより～

展示を見て、さまざまな人々の歴史や生き方、生きている環境など学ぶことができました。子どもたちが生きる社会にもいろいろな人がいます。自分とのちがいにとまどうこともあると思います。けれどそのちがいについて学ぶことができるのは学校だと思います。意見交流の際、“知らない、わからないということが理由で、距離が生まれてしまうと思う”というグループの方の意見を聞き、そのとおりだと感じました。知るきっかけやその後の行動・言動につながる学習ができるよう、体験的に学べる環境や場面を設定したいと思いました。そのためにはまず、教える立場である自分の知識や体験を重ねていかなければならないと強く感じました。人権参観の前日ということもあり、さらに子どもたちに伝えたい、知ってほしい、一緒に考えたいと思う機会となりました。

班で話し合っているとき、一人の先生の「知らないことが一番怖い。」という言葉聞いて、本当にその通りだと思った。先生自身がよく人権について考え・学び続けることで、児童にも人権意識が伝わると思う。今日学んだことを今後の学校生活に活かして、児童と関わっていききたい。

人権という堅いイメージがあり、しっかりと事前学習をしたものを生徒たちと考えるものと思ってしまうがちですが、日々の生活から生徒に人権について考えるきっかけとなる発言や行動があると思えました。ただ、その発言や行動に気づけるアンテナを磨くためにこういった研修、先輩方の話や実践などの伝達がとても大切だと思うようになっています。人権に関することに終わりはないと思い、アンテナを磨く努力をしていきます。

リバティおおさかに初めて来ました。教科書でしか知らなかったこと等の実物が展示されていて、子どもたちとともに実物を見ながら考えたいと思いました。

特にいじめのコーナーが印象に残りました。自ら命を絶ってしまった子どもたちの思い、保護者の方の思いを直接拝見することはなかったので、身につまされました。すぐ目の前にいる子どもたちが、“自分はここにいていいんだ”と思えるように安心できるクラスにしていきたいと改めて思いました。また他の先生方のお話を聞く中で、自分が見逃していた点や新たな気づきもありました。また、張先生のお話で、私自身の人権感覚を磨き、日々の瞬間を大切にしながら子どもたちに接していきたいと思いました。“あなたが大切だ……”と伝えていきたいです。

展示を見学して、色々な分野にわたって人権問題があるということを改めて学びました。差別や人権課題を考える際、まず「知る」ということが大切だと思います。うわさやイメージだけではなく、自分の見たもの、聞いたものを吟味し判断することが必要だと思います。

日々の学校生活を送る中で、授業だけでなく私たちの言動は、常に問われ続けます。人権について知らないことが多く、もっと学ばなければと感じている初任者も多くいました。展示資料は、本研修の時間では見切れないほどでしたので、ぜひ春休みなど時間をつくり再度訪ねてみてください。子どもたちに伝えたい、一緒に考えたいという強い思いを支える新たな学びや気づきに出会おうと思います。